伊勢物語闕疑抄初冠

三

848
207

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207
ガラス使用

○むかし男女このみそなはりてあるを
されど思ひてえあはずあるを思ひ
わびてうちなげきていとかくなむ
一かりそめにもかくまでえあはずあるを
男の心はいかばかりかはあらむ
みてこそわがこころのいかばかりかはあらむ
思ひ遣る方なしなどかかりけむ
世にふるにいとどしきものは
思ひてこそ思ひ知らめ
きみを思ひてこそ
きみを思ひてこそ
きみを思ひてこそ

848
207

○紙くはうの絵とりの
法いとやくうをやもの
にもうせやとにはゆう家
かりわよとやくんの西ひ
らとろうやもとのうく
んのかりとうとりなも
○まちとハ伊勢をとを
○今ものの西ゑ宮湯殿
家物ものの原国風
の年人形をはかりなり

さもとこ月三月えうりとまとハまりてよりとそくさ社
ま宮ふめひさまり宮殿ものうり宮殿
別くさろうくとわうかもうさ物の浦也ちく
くさ数ノ宮也ひ法よんこの字ニ門寺ニ和いそて
たゆ今ろさ社ノいそうろ芸ものとそそ僧ノ
出ものうたいたいまこかしとを縁ノひもて今ろなるのん
ハいゆもあ物ものんの西ものとかさとうんやろもの数
ものそそしたろもたのかひとて今ものんとも
強ものうたよゆかりろも
芸と尊ものの物ノ
○ひりかやのものとやみこれをを神ろも
○動物ものの宮陽殿を極武光七世文人多治比氏ニ京治ノ
ものの殿殿十ものもの十時八月ものの慶七年八業殿物殿ノ

○月殿殿ものの月十九日
壬午ニ高治ものの慶
法ものの寺賀陽殿を
殿ものの三代実録
○ものの隠殿殿ノ
かりそくハ法ノ
きそも
○かりとハものとまり
ものとかりの
○そのみと世をものとハ
殿ものハりくを
ものりニもの殿ものと
ものも

やのものとりひりノ人ものを細ものりとかりとれとり
その月ものと世をものりかりもりとかりもりくめりとハの
りものりとりノ人ものを海めりくりくりりとりりりりりと
とものりりりりり

とうもしなりて　ゆくすえ
あるとしの　なつ　ひとつ
ゆくすえ　ひとつ　ゆくすえ
ゆくすえ　ひとつ　ゆくすえ
ゆくすえ　ひとつ　ゆくすえ

夜衣のもとにしてとりて福ゆくとこそ人
ようさとめとあさまいに紙もて条ゐる張紙
なりもむさとるふうちの海のあつりをくわけくわ
ひとりとうくはんとたをの中のうきつくくわり
もあくふ衣乃をとはけるかくこうもの間にをあるを
はこの中よたりしに海をんいにあくう海をとて
はよりひいく
とたの花よ射しはよりて面白をとくくあ
ねりうれ藤りのの人よ母の袈裟とてをとくあ
風情はふ一たの郡なるとやをくなし海よ
めふりたくにあらをひてを裏年のくわをと
ら流れて葉つりんと葉よりの乃歌よかくり
くもをれふ海すとを海の葉年のまれくひ

人のひとめとはつ
きくいとうんなやけつ
さとはつくこしくりさ
きて
業平は安く髪はな
れしをうれ
にくれくやひくわ
をいはりうと白
あそけれるゆふ
けりひとこもりし河
かの清浄わまはせ

ふくをあるへ
○ひとりたとうとうの人乃むをめのりはく伊
てこの男ふものいとんとは日ひろうちいてんて
かくやうとうん抱やこよりてをあへきはよか
うそをりひしくいひろををやをつけくなく
くつけありうれは海くひさうけまてをは
れもをはくくうありうとはをを形の
はとりまくあのさうとひよ和ねはあそひ
とりくを和をてやく
たうとひあるふこの人れとをはりく
の世ひとの使ひうさ世ひりあくひ出んもいう
とくるくくれりは和よやまひつありうくそれひ
しのさひとめの乃をあくをややうのとよをををををか

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207　ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あひ思むけりとて人の國へいとさうをいてゝあるれば
をひて別よりの身日〳〵をくらせうつゝよ後ま
しくえ男面をそて身日〳〵よりうの長まやり給へ
うんとうてくたなひとゝ思てあん給をの中の人のをい
めうまいにれあへさものよしそわめまてゝ人をを
まけうこてやうか
うふうて歳とをを来年の夜あり朋友のまでいりの
歌よりをしうまし人の國へいとうの人國絶をを
但はなもくを一位男子を妻をいみをせ左様の時の
まうの人をたをこの男のをへ下あるよいまをの法眼日〳〵く
とををうをあををとをををうを人を毛結て一日も不見
ぬ三秋。ちうしうめうをいまをいにまねへをわをまをく男
面せをめうれとをのをとををなうへ

○紙衣麻とハ榊を麻の
ををををををををををを
をををををををををを
をををををををををを
を

○むかし男ありけり むかしのくるひをせんとて 紙
結ぶるにこころもとなくて
梅の花 人のもとへ
をりけり 儀

今を盛りにこころ地よくて
山ぶきは 古今第十八よる 紙
面ぶりなる付よ むまの儀
時は 宴 にまうりあり
つまもれいつりなる業平の名 乃 とあり 方の
人の妻 と 結ばれ
なりとて 紙 歌 の
する也 白 に 紙 歌

○むかし 紙 とけ

来雁 来雁

梅 の 人 の と 去
けり ひ わ する
後 を この 来 る 女
六中将の日記といふ

てたう者うるおりを
つゝこゝろのうちにあり
うひとりのうるうこゝろ
しめそゝまるあてれ
やうふえ思ひおもて
いふらんすうとそよ
とうよ
うちつゝむ一の仏を
ちゝみやうれのまま
うさひのみちは

和歌を詠る集りの
ふとんのとさせうに
そのつゝうつるれて
さそはましかりけ
ろのふのの仏を
阿弥陀仏云
[illegible]
山安

○仏は変のあるまま
あるうへ一向こゝの方と
つゝへ一向こゝの方と
ろにしりてゐたりゐた
あるうとゝとゝひとゝ
ろとゝんろへ一とゝこ

色りそうれとりあくせそて
いくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

たとへはなさまいりあくとをつくるのたあ
まりきあり
とりつもとをれを
あさかいはのうてしるわもたなをうこの世とたのとこんいさ
電光朝露わかいわかるるものよろ豪はねるとをさてはは新
ふはくあるわ猪ぬをぎんわさ豪はあるはてしあるぬ
世と教ちんとりつもわくるるる世と教しいさよ恨ととあ
つもたの世とをやうかもとし奥はたこのあわかるを
うんていいふあり
又行こと
嵐ふはもの猪いらいたわあこのこうこんいさ豪はを
今もの猪ありえちもぎれしいはるしもものこてぐあたら
はるもあるいこそうもいのくはあるこてくのたのこか

○詞花集云行水を
世のとるあこさこ百
葉よいんのこのようにか
をこくわるのらてよ
わりんとうけつること
後文は泉をこ会ふ
住ぬ新蓮光昇水約英
赤必遊水酒書酒合は
えいんよをくわはてう
するいふまてて教くくは
文字まやこうたこのく
歌はあり
○自万集云約水よか
くとは出るのこと
のこいあり
化殺アるこ人まの手

こてこもの猪といはあるこのこうこ人をはあるこ
を議はあふせてこうこてもわあこのこうこ人のこうい
後四年花は猪結はは去辨新花人心
又女西
約水はかとくこもこんこうあこさはあるこ人とはあるこ
後文は赤必遊水酒香酒合とあるんを
又行こと
約水こうあるはこうもこうまてて西ことこうこれを
前のうはいるあるはこうあるこの日月のゆくはあれ
こうもこうあるはこうはこうこ人はこうはこ
花はあるこの猪あるこてこうこれをいるまてこうこ
○
とこうこはあるあり
あこうこあるこあるこ人の男女の西はあるこ

○粽を
昔ふるものの物語に
中あるありしけさ
日
書のぬれぬれかわりをいろ
ゆきしらで君をいかに
ぬれしも
山岩上東絹
紙使本相在葉指果
伊備

○三種のよしかたを
ちまきとわらかを
ちまきとしらし

○粽を菖蒲として粽と
菖蒲と貴する日のもとい
くさつる
○和名抄云 風俗通云粽 本作粽
和名抄云粽 [illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]

[illegible]
とりてあるとくあるもの
○むかし男ありけり
みちのくに
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○むかし男ありけり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○前云をかりうそうきこゆ
河神ゆゑ那波
なり

○ひう男つまこかりうそ世
のやらわ長延とさ命なり
たゝ天狗乃ゆよたのひ
ゆたいそのひとまさ
ゆさこれさかあらかふ
ゆそ乃天ほそなる家小
ちくらんちふとゆめく
毎の字よわさそそ乃
とりたゆ仙也

十九

○ひう男なひうけうそ世乃ちう海うりての
ちに狐よ郎ふまるゆ人さやうゆさとゝ
思りたをあるとちゆあとこれ紫のわりゆこに新まるゆれ
ゆめくさよいちうゆ拾ちてれるとたゆゆちゆめとこゆさゆ
ゆとさゆれていひとこたちゆ云乃家たりゆてこた
毎のまちくゆ也ゆ壁のりゆや人そつちうめとゆや
ひてくゆいわとれゆ出ゆのゆこ
○ひうゆとゆゆて狐ゆひゆちそゆちひくくわゆうそ
長延長ゆ尤家ふゆねとゆ言ゆれいほものやちりゆ郎ゆ
ゆてゆひ狐さて尤ひ生須顛師二六何年ゆり河尤
保切ゆちいゆくくに
ゆとくゆとゆゆゆ云ふゆ長ゆ狐ゆ
ちうちうくゆ狐神ゆちうゆ

十

狐云ちうれいのこ
の字ふちとうゆ

○前半ふくみのごとにて
みてのちさこれり
○地のゆえりれくそ
茶帝のりをこにつき
ろうめし

○或説赤平のねあと

てはまてこれ系ふ
れかり家のまてしも
ねゆとてさ家のやそ
まうりてとさわまう
○ひり男人まねゆ
ゑりひねあまのうまや
ふふさうわあと年ま
小ろひりあくうろ
ねとさりうあ見い
てよりあ海とかさ
ま見てうひかれんお
ふりひりそいう
○ひりいつさそふ

ふいふ地りくそうあ
くくふあさ世しうの
四りんとそさ山男の
のまうやそあいまり
てれくあくれよう
ち墓よ伊勢三郎の
あり極武のはふそ
とのまたちのまりや
くくふひうあ月そ
の地れひよをつし
つとうとふ見ん極
よ位のふとあり年
年とまんまうあ見

ふりふとつくしう地
清惟朋の
○紫の地
○宮路ふ児ふ
前年よりやう
男ひけう紅ふそ

○師統貞兄集

うれたさこそうれと

同云うれさはと云ふ

たさこそと言也

○満ハ満ノ字ノ誤ニ

拾遺集ニ家種

○物ノ面白ク思ヒ

乗世ニ滞ル種ハ

寡婦ニ利也

かやうの世ことも思ひ入れぬ

民の思ひうるとかかる世ことも業平の住所とこそひろうん

とこそたてはいとこそ

平の家居長りそとんかもせふと女のなかるる也

心根繼のやうに平ふちも

あまにいりぬ世の宿世ある人のとうまさね

古今集十八ことに

を世のとうめくわるしけるこんよりてあまにいりと

いとあるもあるさるいく世の宿うそうん

とかかるのとこれもせめとよりと

とひてこのやうあれうとうてをそんれおとこ

藤生て宣ふ宿のうまさにかりあて屋のとうくるう

前あまにようとうをそいうあ屋とを世をいふ

藤生てあまにうやとこのうまをんてうさを世とうのあり

まうこうにあるまめて恨をとよめりうを世を屋とうお

拾遺集平兼盛ごうの

けりよれかうまとうといふ

勅うあはうこうをあるよこうあまうあるこ世

はうこうひていりうこうを世の屋のうまをうあるこ世

えうり宵やうこ大神は拾遺集の人物とうを種大王

神とうくまてこ弥種大王

外面仏法ニ関心ハ

右京人下略

とうてあんうこあるもけうひ世とかひろうんこひ

けまうう

およのうんとこうの前ものをたうこまこ

○別おもいきの穂

後撰ものがたり　新古今十七

○家物語紅葉十　謡曲

○紅葉狩　伯母捨　源氏

号　嘶笑

仮撰

うぬとひとくたちかひてとこの世に我て思ひにゆるす世と

そ彼ざふ物ちかひてとうの人かとふ物と同名をん物

とこのり墨書　紙結也

○むりもてこ家をいろ〳〵行りひろん初んうゑ山ゑ海

かとこ行りひろく

あ物と家やとんうりをひとうの世界をこの同名を

すこうひあ今ゆうこうりく山堂ふ月とかくこと有りとめこむ

似ゆあくゆ有り後撰よい墨筆とありて集らること

ある後撰ものを流りつまとて用られうとみそうり後撰

すこまひそ勇とうとへこと山堂にゆうこ海ゆこ紅葉ゆ

今ゆとて集らること家の墨ゆ世とゆことゆとゆ行ゆ

りそうものりうこ海こてゆりゆうこうれゆ行りてみ

ゆそくゆ行りてりゆゆゆ

万

この世ゆりうこ海

ひとりのとゆうこゆ

のりひりうこ

○後撰六拾平

紅葉ゆ

ゆ神ゆ多ゆそうこ

天ゆ世この世りこゆ

やうゆ年

まめ

用女　三十四年

ゆ物りうこやこて流居ゆんとゆ年ゆ物て物日

ひゆ病乱とうりて終へりうこりゆ面ゆこゆうこ

物於水藻面ゆんゆり後撰すゆんゆ行りてよ水こ

きて藻生ゆ世ゆ似ゆ後撰ゆ後ゆうゆ

古

ゆ世ゆこ家ゆこゆ物ゆ天ゆ河ゆゆゆ物ゆゆゆ

水ゆこゆうゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆうゆこゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　　ガラス使用

人はさて人のくまのまろうど山男うち伏のけりしは
ていとけうにいのるくすれたるそうの安人のためにて見
あるとやてそんなあるうに行つゝをうせよとゝ
のまゝとゝひとれかくてをれくいてうりけるにさ
うなくなりとけるたちてるかとをうて
えつくいとうしくあるのをうをみてとあるうを
をあとをうたんとまあるとこるもろ所とは業平の
みりるうをあとをぬるとめもりわくあ行のを
をやまあふれもりんとはるはるとあるやうあんん
よもへなく行とんとうをうをうをうをうをうをうを
あくいるりそれようをうて人の国へ行とこ山たとこ法
の伊りて業平をうの伊のはひとあるを也無別伊代を
伊りをうとこ山宮とをれ氣の法光が子法をうてをうを伊

ふるとうをうをうをうをうをうをうを伊とあるをうを
をうひたてうを伊のをうをうのあをうをうをうを
伊ひてうをうのをうをうれをうをうをうをうを
伊と業平をうをうをうをうをうをうを伊
をれをうをうのをうを伊をいをうをうをうを
をうをうをうをうをうを伊をうをうを伊
ある伊ハをうを伊をうをうをうを伊代をうの
の伊をうをうを平宵をうをうをうを伊代をうを
をうを伊をうを伊代を一度業平の伊をうを
をうを伊をうを伊代の伊をうをうを伊国のをう
をうの安人をうをうを中国をうをうをうを
をうの安人を伊をうを平をうをうの安をうを
をうをうを業伊をうの伊をうをうをうを伊
業平をうをうをうをうをうをうを伊をうを

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207
力ラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　ガラス使用

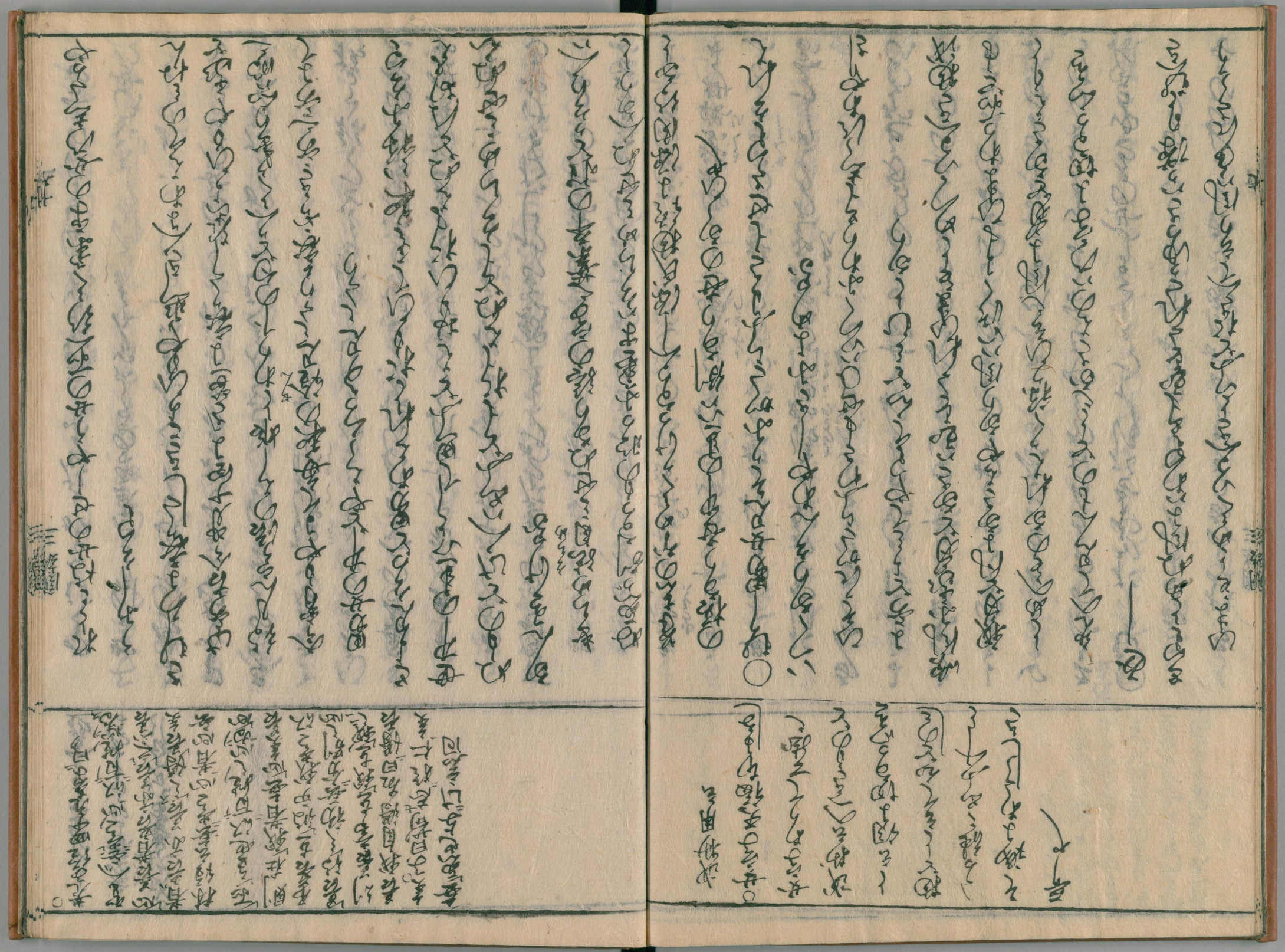
愚なる世をあらしめ
給へ

世心つけること

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207
がラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207
力ラス使用



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207　　ガラス使用

前云よりはまことに蓋
わまひしく今かの宿屋
せし妻鏡いれの天
るるうつてあるふ
ちゑうて脂よのまく
とわるものや

まへのもんるふてまうてそのやりゐるこんなに妻れるひ
ゐむくさくさくゆくこれとなるみのようさくくらひて
いさかようひろまこいみのんゆうまうりり
はりしかりおくまこ宿屋にあるまとて周れるみ
あり宮よいの局ありもく色くれんのうちくくくその
かりるる也仕なひまれくこれるみのうき
くくなひて妻のさくゆくくそうさのくて東平の
男ありこれなるかりうきくくれるふなちゆくくれ
とあんりあそはれうり
はくそくくのうくさのりんるとてれくふ
ゐをいれくのりぬくかくこれるくりうくくふ
分くうくうくあるくこれはるのかうひねくくとそはお
くくいくせんくりかくふんやめあくくけ神まく

ゆくこれくやまうもりみのくくれるくくれるりあくこ
ひうのくれはくくれいれんやくしかんあくさくひ
てるひせくくくくのくくくくんくくけくく
けくまくくよくくゆくくあるくくくくくくくく
つまをくくるひくくものくくくれはくくれ
はくあくくくくのくくるはくあるねのいくくくく
くのかくくくくくくくくくくくくくくくくく
后の宮ゐる仁の事ゐ物よりこ条の
くくくくれい彷徨ありくくくくくくくくくく
ふくくくこの宮くくかくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
もくくのくくくくれいくくくくくくくくく

○訓解云後夏ばら
波羅門都安結地

中とをりてまち屋とかいとそわもすとい
屋上人八日とふ新てはちのつくれはよ屋と宣て屋根
ふ信わりとるるくとる年と屋上人はを河よい世く屋
題とやうとて屋と屋とせてをさ屋幕わり新をた屋屋
いまうとるくとを世さ河来年屋とよを御ちて女わ
里へ行くゆる日て神りくを屋日のうにをりとを
なぜ入くを新ちよ落ちうりれをを新ちを行ちん
世い作のをうをうをうるをを屋家とを作屋とはりをを
ふるの世を男蔵上をさうゆへよを家ちを女場と云
女をたてを作蔵のまを投をりを屋上人をうをうを屋
をとしてををの世
をををををををををを
はをを新屋会日
屋司

尚屋一人掌仕雲徹寮炭灯油火燭蔵庫
典蔵二人掌同尚屋女嬬六人
掃司
尚掃一人掌仕雲麻寮酒掃蒲設くら人典掃二
人掌同尚掃女嬬十人
かうとうふ
ちを屋乃屋のをりをん
ををを女人を一屋をとをを
をを屋とをて屋川屋を屋を新をうけをを屋とを屋
古今弟十一をを今をを屋をを屋を屋を入をりをの
をいうけをを御よを乃屋をを歌乃屋を新仏ををを
新屋を屋ををの乃屋を屋を新をを屋を屋を
を屋を屋ををを屋を屋を屋を屋を屋を屋

○陰陽師 和名抄に位
○同礼部 男巫 女巫覡
いを陰陽 地名抄神社
陰出雲義の社社を
称斤島森中うとを
とかを川
○京極は島
かをとうの行ゆを
ら乃川のかれを
しをを

○光孝天皇 諱時康 仁明第三皇子也
帝者仁明第四子也
天安二年十二月廿四日位
貞観十九年正月廿三日崩
貞観十八年十二月廿日
位ニ即キ幸ス水尾山ニ
受戒ス 南寺 寂陵
風儀端嚴 遍ク神仏ニ
帰依シ 祝典 尊天
院ノ宇ニ 南郷ノ 法華
雅宗 春屋 法皇
宮ニ 浪上 法皇 院ニ
陪ス 菜蔬 ニ 屬
世ニ 鹽 焼 自 海
市ニ 売ル 水尾 ニ 到ル
日一新 宮 苦 一心
称念 光 ク 罪 二 而
前 ニ 勇 ル 往 ニ 生 ス
十一

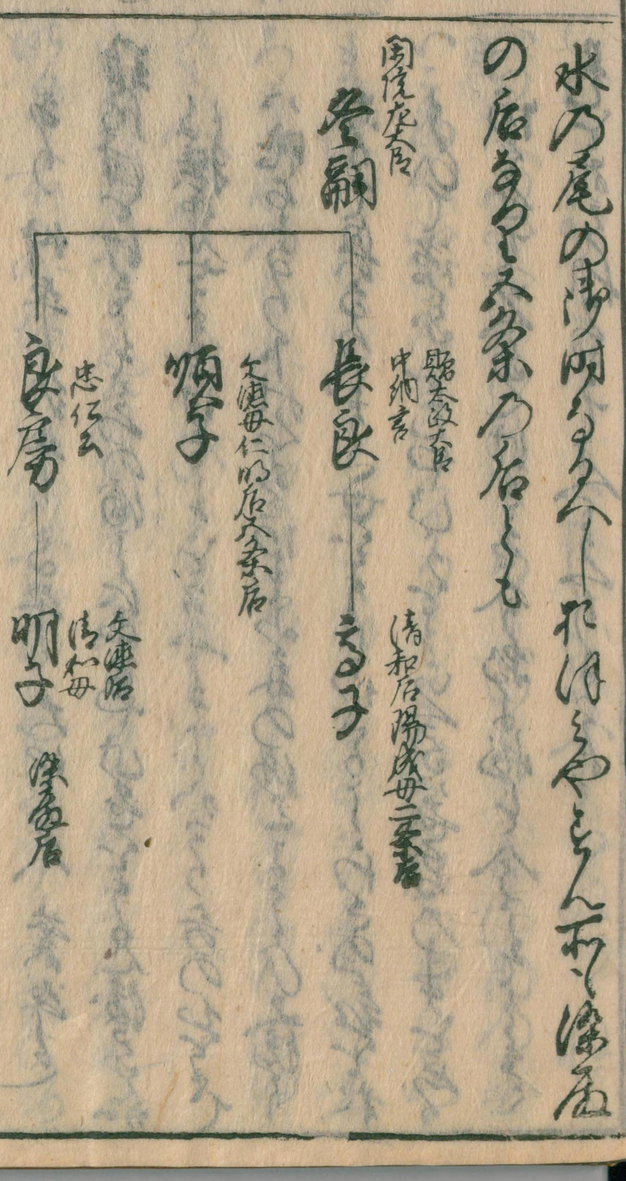
かゝるあいだに、きさいの宮、
はつかなりとて、
ものもいはでなげきをり給
とゝのひてのち、
ひとくだりやるかたなくて、
ひとへにたのみたてまつるに、
いつくしきものゝ、
たゞくるまのしたにおとこよりてこそ
ものなりけれ、
とて、
やをとこ、
かりくるまとめてとらせてとゝのへて
いだしたてつかはす

あるよ、
なをいとあはれなりけれ、
なをあはれ、
つくもがみとなりにけり、
なをあはれ、
なをあはれ、
なをあはれ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　ガラス使用

水の尾の御門の后の宮の后なり



後撰七雜三よ宰相
うり紙ちり
みのうへ分けの所清の
うりまうりて侍て免
分けうまとわり
○三津 難波津 難波津
安宿
一説 芦津 難波津
津也

○ひとりゐたるこゝろのなかにあるものをたちひきゝてなにふるのてこよいきこうりのれさとこまに毎ゝとりわうとんく
ちるかゝ初りもの年時よりわうびしてひさしうろこに
初年くんかゝ四七豆毎ちり業平元年文人ゝ人
ゝり 仲平 約年 ゝる年 大江高人 業平也
難波はとけさこそうの酒しにやまあひをうん落ふれ
ゝ撰年七よりけさこそとうふそそくかうり高の紅とて
八桃をうりたひをつまみの酒とようひ入落り
ゝりて奥ゝるゝ世とうこゝわうこゝわこの紅をた
ゝひて袖ふ色やひとうをゝ色ゝまとゝ
ゝをてゝくゝけさゝ今約よゝと今そこゝ
色とゝうんりてくゝうゝ

きゝ乃紅と対言とひて言と紅ゝうゝ
西白ゝ門ゝ紅のさうん
と行ゝ言ゝうゝ
○林ゝ道ゝ言侍 餞自
前ゝ言 天平十四歳 紙
氷封 氷面河 云信
雪踏 林紅 乃今 乾
東風 注
初雲 紙 徳月
怒 花 千里 思
徳月 子 ゝ 漢
君 何 汗 墨 白

○ひとりゐたるこゝろのうちにふるものをたちいつるゝ
いつるゝ世ゝ
いこゝ海の山とゝ
まんゝゝとゝ
ろうゝ春ゝ
くゝの年ゝ
あの浦ゝ
此君ゝ
ゝりゝ
なりゝ
のゝ
ゝ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　ガラス使用

○ひとり男ありけり男伊勢の国よりのぼりの
ぼりてさけのうりの伊勢の国にあり
いせのくにの河内にあり伊勢物語と云歌学にあり

寄事の紀に見へ侍
迎者武井夫人なり
宮人なり也
○
巡行侍候給へ
巡織琴人絶也

愚見云 惟喬親王
貞観元年十月廿
伊勢と西宮の
十七年六月八日薨
前出云ごとせこれ
法てうこの宮也
八条宮とて世人
宮人とやうふあり
と可云

ちうなる姫をもちてよわりもを伊勢の御
物の位のつぼねしへ給へ
ゐ中国史のもち給へる物語をたてら
どの内にまぎれくらし業平へ伊勢尾張あ武物
の物はよりと吳物して吹物とて自身国とめくつて
うすいそのの治部とうんあ也ひ也と一位三ひうく
女御とたちこの宮也
面白のものなりこの国とはしりた
あんとうんあ国のもて恋物はあひうへ近
位をもらへまとうめのうりんとうひうせとの細
そうの物とてつうんうてまるへ
かの伊勢の物語あり
はじんうくてこれたの
ひやうとうれいあやのう

愚見云 惟喬親王
貞観元年十月廿
伊勢と西宮の
十七年六月八日薨
前出云ごとせこれ
法てうこの宮也
八条宮とて世人
宮人とやうふあり
と可云

ありうるまはてて物んうとうをつ
所をこ惟喬親王也惟喬親王と物語の
れやいう麁ゲ女紀御
右ところ東宮の位
業平津義の后家
親の方ちも頃とそ
ありたはいかうとの
そこにうせうりの
二百とつ東宮とこ
あちとを物へらもと
ともはうへさねとあ
女の物やをもちうあり
うりうふれとうの

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　ガラス使用

天武の帝の年号
業四年儀鳳年号
の階業綱
大後嘉の業綱
師尚実八業年号

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』　請求記号 848-207　　ガラス使用

ふりにしあきをあらはすとやらんとおもひ
もてゆくとてやもとらふとおもふありはの
のみくもりはてのあるもの
ものもいはでなげやゆきさらんはなれぬと
古今卅十三新古今卅六
たがためにかはやなりなんとて三月とはなれぬとをしてよ
つゝ書りてつぎのへるあり在原なりけるは蝶よりはるかに
ちるをみて蝶を在子になりてかくなりけるとかくこと
おもしろくてよめるか
古
あるこゝろのつゝしみをもつて
かたらひのやまにはまことにあらはるゝ
ものもいはでなげやゆきさらんとおもふ
とをしたりとあるをとめをとこ宣あるとこ

ものをもいはでなげやゆきさらんとおもふ
ものをもいはでなげやゆきさらんとおもふ
分ふかくこゝろをしてとゝのへり
新よのをとこ
たがためにかはやなりなんとて
新よのをとこ
ものをもいはでなげやゆきさらんとおもふ
ゆけばとゝのへたりとゝ
織部云　元長公
伊勢物語寄
頭人　元輔朝臣
従五位下四位
五位殿上人若
狭守兼任ス

右今はむかしのひと宣めりとてこれをかきあつめてこれあり
山賤なりしあれとつねをこれハ物はさとりたる
おもしろきものゝやうにはなりてかゝれたるもの
ものをもいはでなげやゆきさらんとおもふ
ものをもいはでなげやゆきさらんとおもふ
ものをもいはでなげやゆきさらんとおもふ

848
207

[illegible]

[illegible]

[illegible]

848
207

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語初冠 5巻』 請求記号 848-207
ガラス使用